



## 鳥取県西部中小企業青年中央会 第50期会長 永井 拓未

- 【所属企業・役職】 株式会社 クラム  
代表取締役
- 【入会年度】 H23年3月 (H22年度)
- 【中央会経歴】 H26年度 副委員長  
H29年度 委員長  
H30年度 県出向理事  
R02年度 副会長  
R03年度 県会長  
R04年度 直前県会長  
R05年度 副会長



第50期スローガン

## ご挨拶

鳥取県西部中小企業青年中央会第50期会長を務めます、永井拓未です。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちの50期のスローガンは「清新澆刺」です。この言葉は結成当時より中央会会員が持ち続けている精神です。私たちの活動の原点である「情熱と行動力」そして、我々の最大の力である若さで表現したいと思います。

また、今期のテーマは「明るく元気に前向きに」です。変革の時代にあたり、様々な困難や課題に直面することが予想されますが、そのような時こそ「前を向き、前進する」という心構えが重要です。逆風が吹く時もありますが、そこに立ち向かうことでこそ、新しい道が開けると信じています。常に明るく、元気な姿勢で活動を進めていきます。

さて、50期の活動においては以下の4つの委員会を組織します。

### 【総務委員会】

中央会の「屋台骨」として、総会や祝賀会の企画・運営を通じて会員の皆様のために活動します。

### 【中央会発信委員会】

SNSや広報活動を通じて中央会の魅力を外部に発信し、ブランディングやパブリシティを学んでいきます。

### 【政治行政委員会】

地域の諸問題に着目して調査研究を行い、政治や行政との窓口として関係の強化に努めます。

### 【ビジネス経営委員会】

マーケティングやビジネス戦略について学び、会員に有益な情報を共有することを目指します。

これらの委員会の活動に加え、お地蔵さまプロジェクトが今年で10周年を迎えます。お地蔵さまの清掃や絵画展示を続けるとともに、新しい取り組みも計画しています。

また、36歳以下の会員で構成されるTSC U36実行委員会では、若い会員の自由な発想で例会を企画し、より活発な活動を目指します。今期は、50周年の記念すべき年に、足立県会長が西部より立たれることもあり、県と地区が切磋琢磨しながら協力して活動していきたいと考えています。

さらに、50周年のイベントとして開催したドリームランタンナイトも非常に大きな反響をいただいています。2万人以上の来客があり、継続して欲しいという声も多く寄せられていますのでその可能性を検討します。

7月6日に開催させていただいた50周年記念例会では足立統一郎OBより「一日一生」というお言葉をいただき、そして永瀬正治初代会長からは「太陽は東から昇り西へ沈むが、改革の炎は西から昇る」というエールをご挨拶の中でいただき心が震えました。中央会会員が力を合わせれば鳥取県を、そして日本を良くできると思います。

「清新澆刺」の精神で、明るく、元気に、前向きに一年間活動してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 理事・副会長・専務理事ごあいさつ

副会長 山内 正樹

総務委員会

委員長 山根 壮

有限会社サンユービルド 代表取締役

株式会社ヤマネ産機 常務取締役

第50期副会長を拝命いたしました山内正樹と申します。永井会長の掲げられたスローガン「清新澁刺」を体現すべく四役の方々と協力し、議論を重ね合い進んでまいります。

先ずもって先般開催されました創立50周年記念式典・祝賀会では、ご来賓・関係団体・OB会員の皆様と共にお祝いできましたことを、大変嬉しく感じております。50周年を迎え、先輩方が積み上げてこられた核の部分大切にしながら、今の時代に合った活動を行っていくことも求められます。総務委員会と50周年事業実行委員会を担当いたしますので、委員長、実行委員長とともに、新たな半世紀の第一歩目を力強く踏み出していく所存です。どうぞ一年間、よろしくお願いいたします。



第50期総務委員会の委員長を拝命致しました山根壮です。7月6日(土)に開催された祝賀会は楽しんで頂けましたでしょうか。まず一つ無事に事業ができた事にホッとしています。皆様、本当にありがとうございます。当委員会は来賓、OBをお招きしての大切な事業を担当致します。50年の歴史の中、先輩方の弛まぬ努力で培われてきた伝統を守り、感謝の気持ちを大切に、その中で今我々に出来ることを熟考し、工夫や新しい考えを加え企画運営致します。素晴らしい委員会メンバーにも恵まれ、担当して頂く山内副会長、松原副委員長、そして私、この3人はバリバリの体育会系です。一体どうなることやら・・・皆様、50期総務委員会にご期待ください。

副会長 安達 信彦

政治行政委員会

委員長 高田 典宗

株式会社平設計 設計課長

有限会社高田 管理部長

第50期副会長を拝命致しました安達信彦と申します。昨年に引き続き大役を仰せつかり、大変光栄に思っております。永井会長の掲げられたスローガン『清新澁刺』を念頭に、高田委員長をはじめとする政治行政委員会メンバーと自己の成長と地域の未来に繋がるように勉強させて頂きます。

そして、米子ドリームランタンナイトから始まり、50周年記念式典・祝賀会までの一連の50周年記念事業がひと段落を迎え、一息いれたいところですが、これからの50年に向けての大事な一年となります。二度目の副会長として、昨年出来たこと、出来なかったことを踏まえながら、前を向いて精一杯活動してまいりますので、何卒宜しくお願い致します。



第50期政治行政委員会の委員長を拝命いたしました高田です。50年という歴史、伝統ある委員会を担当させて頂くことになり、身が引き締まる思いです。スローガンは「至誠」研究テーマは「地方創生」としました。この鳥取県西部地域に貢献できるよう活動していきたいと考えています。私個人としては大変微力ながら、委員会メンバーが一丸となって清新澁刺とした活動をしていきますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします。

# 委員長 新井 翔太 中央会発信委員会 副会長 高岩 雄一

サンインフーズ株式会社 課長

有限会社いけまつ環境 代表取締役

第50期中央会発信委員会 委員長を拝命致しました新井翔太と申します。当委員会は中央会HPや広報誌「雄飛」「ハンサム」の発刊を行っていく委員会です。ハンサムは今期も隔月の発刊となりますが、InstagramやFacebookの更新を引き続き行ってまいりますので、ぜひそちらも見て頂いてフォローをお願い致します!

委員会活動と致しましては、SNSやHPの活用とパブリシティ、ブランディングを念頭に、また言葉の使い方を改めて学び直し、学んだ事を発信していきたいと考えております。1年間魅力ある広報、発信を目指して活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、取材依頼や情報提供など皆様をお願いをする事が多々ある委員会かと思えます。何卒ご助力頂きますようお願い申し上げます。



第50期副会長を仰せつかりました高岩雄一と申します。西部青年中央会が50周年を迎えるにあたり、永井会長の掲げられたスローガン「清新澁刺」を胸に会の為に精進してまいります。

今期担当させて頂くのは、中央会発信委員会です。50周年に至るまで創造してこられたこの中央会、そして今後の中央会活動をさらにブランディングしていく中で、あらためて当会のポテンシャルを再認識出来る情報発信やパブリシティに挑戦していくことが求められます。広報面の柱を担う重要な役割となりますが、委員会メンバーが「明るく元気に前向きに」活動出来るように精一杯サポートしてまいります。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 委員長 田本 真大 ビジネス経営委員会 副会長 仲佐 大志

山陰酸素工業株式会社 米子支店LPガス直売課課長

株式会社あしがる 代表取締役

第50期ビジネス経営委員会の委員長を務めます田本真大と申します。先輩方が繋げてこられた半世紀という歴史の記念すべき50年にこのような大役を仰せつかり、身が引き締まる想いであります。

今期当委員会のテーマを「尊重」といたしました。自分の考え、価値観はもちろん必要ですが、様々な考えや価値観を持つ仲間がいる当会において何かを尊重することは自己の学びに繋がると思いこのテーマにいたしました。書いて字のごとく「尊いものとして重んずること」という意味のとおり、「自分」「仲間」「限りある時間」を尊重し、委員会メンバーひとりひとりにとって実りのある一年にしていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いいたします。



第50期副会長を拝命致しました仲佐大志と申します。永井会長が掲げられた「清新澁刺」のスローガンのもと、田本委員長、武良副委員長率いるビジネス経営委員会を担当させていただく事となりました。この50期という節目に大役を仰せつかりましたことを大変光栄に思います。先輩方が培われて来た精神や伝統をこの先も永続し、発展の一助となるよう微力ではございますが精一杯務めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

重ねてお願い事となりますが、今期会員拡大の担当を兼任させていただきます。共に学び、成長して行ける仲間を増やしていきたいと考えておりますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。1年間宜しくお願い致します。

## 専務理事 中西 悠介

株式会社LABO 工務部次長



第50期専務理事兼会計担当理事を拝命致しました中西悠介です。50周年という節目に専務理事という大役を仰せつかり、自身の役割や責任を節々と感じております。これまでの諸先輩方が築いてこられた数々の伝統を胸に刻みながら、会の運営に取り組んでいき、永井会長が掲げたスローガン『清新澁刺』活動テーマを『明るく 元気に 前向きに』を会員の皆様が体現できるように努め、私自身も一年間、明るく元気に前向きに専務理事の役を歩んでまいります。皆様よろしくお願い致します!

## 会員拡大 兼 継続事業担当理事 長谷川 恵一

HASEGAWAテクニカ株式会社



第50期、会員拡大と継続事業を担当する長谷川恵一です。当会の長年の課題である会員拡大活動と代々続いてきた継続事業という2つを担う理事ということで、身に余る大役ではありますが、会員の皆と協力し1年間勤めていきたいと思えます。継続すること新たな試みを実践していくこと、柔軟に考え、スピード感を持って取り組んでいきます。会員の皆様におかれましては、ご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 令和6年度通常総会『敬愛』から『清新澁刺』へ



令和6年7月6日(土) 米子コンベンションセンターにおいて、第50回の節目となる通常総会が執り行われた。議長は第49期副会長の谷村祐也会員が立候補し、全議事が全会員による「異議なし!」の声のもと可決された。当会が発足して50年の歴史をしっかりと紡ぎそして、第49期中村友紀会長から第50期永井拓未会長へと、そのタスキが繋がれた瞬間であった。

続いて特別功労賞の表彰へと移り、第47期会長を務められた奥森秀夫会員が長年の会への貢献を讃えられ、感謝状ならびに記念品が授与された。さらに続いて会長バッジ授与では、第49期中村友紀会長から第50期永井拓未会長、第50期足立駿県会長へとバッジが渡され、いよいよ記念すべき第50期が始まった。

また、会員表彰では精勤賞受賞者を代表して隠岐翔太会員が、皆勤賞受賞者を代表して川口慎司会員が壇上でその思いを語った。続く会員拡大表彰では、1年間の会員拡大に取り組んだ各委員会から年間獲得ポイントに応じた表彰が行われ、敬愛委員会が優秀賞、総務委員会が最優秀賞を受賞した。そして第49期の集大成・委員会表彰では、この1年間中央会の事業の先陣を切って活躍した総務委員会(大江史紀委員長)が優秀委員会、当会の2大テーマといっても過言ではない「政治」と「ビジネス」に切り込み研究した政治・ビジネス委員会(小坂泰彦委員長)が最優秀委員会を受賞した。

(記事: 狩野)



## 卒会式

通常総会に続き卒会式が行われ奥森秀夫会員(H23年度入会) 内田隆嗣会員(H18年度入会) 小谷泰樹会員(H24年度入会) 宇佐見啓輔会員(H30年度入会) 景山慎也会員(R01年度入会)の5名が卒会された。第49期中村友紀会長より卒会証書と記念品、花束が贈呈され、卒会者代表挨拶を宇佐見会員が述べられた。最後に卒会者より当会へ目録贈呈があり、卒会者を代表して小谷会員から中村会長へ目録が贈呈された。

(記事: 狩野)



# 50周年記念例会



開会の辞を述べられる 第9期会長 足立 統一郎 氏



会長挨拶をされる 初代会長 永瀬 正治 氏

続いて、50周年記念例会が米子コンベンションセンター多目的ホールにて開催された。

記念例会では、開会の辞と綱領唱和を当会創立メンバーであり第9期会長を務めた足立統一郎OBに行っていた。足立OBは「毎日毎日が修行です。1日が一生だと思って理想に向かって一生懸命愚直に進んでください。必ずその愚直さが役に立つ日が来ます」とお話になりました。

会長挨拶は、当会初代会長を務めた永瀬正治OBにご挨拶いただいた。永瀬OBは、当会設立当時のオイルショックで日本経済が大変打撃を受けていた当時の社会情勢のもと「鳥取県は日本で一番人口の少ない県であり、県を支えているのは中小企業である。その明日を担っている我々が何とかしなければならない」との思いから当会は発足したとお話になり、現役会員に対して「一致団結してこの地域をもっと元気に、もっと澁刺にしていきたい」と熱いエールをいただいた。

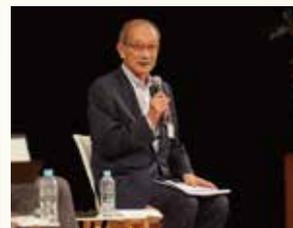
その後、ファシリテーターを野口浩一会員に、パネリストを第11期県会長杉原弘一郎OB、第26期会長土井一朗OB、第35期会長増井幸一OB、第48期会長高井賢一会員として、当会の50周年を振り返り、「青年中央会とは何か」について「中央会寺子屋論」「出席率について」「中央会野武士論」等の様々なテーマでパネルディスカッションを行った。



ファシリテーター 野口 浩一 会員



第26期会長 土井 一朗 氏



第11期県会長 杉原 弘一郎 氏



第35期会長 増井 幸一 氏



第48期会長 高井 賢一 会員



最後に、50周年企画委員会担当副会長である恵比木会員から「『中央会』として、青年らしく大胆に行動していかねばならないところは設立当初から変わってはいけなところであり、中央会のアイデンティティであると再認識しました。現役会員も刺激を受けたと思います。今後も現役会員で当会をより一層盛り上げていくことをお約束します」と謝辞を申し上げ、記念例会は幕を閉じた。

これから60周年、70周年、ひいては100周年を目指す当会、そして、各会員にとって当会設立当時の思い、そして、今日までの足跡を感じ取り、迷いのある現代社会において、そしてこれからの新しい時代において、当会の指針を再認識することが出来た素晴らしい例会となった。

(記事：小原)

# 50周年記念式典祝賀会

引き続き、50周年記念式典・祝賀会が開催された。記念式典からはアナウンサーの比和谷恭子氏が司会を務めた。

記念式典は安藤実行委員長の開会宣言の後、ご来賓を代表して衆議院議員の赤沢亮正様、湯原俊二様、鳥取県中小企業団体中央会会長の岩崎陽一様、OB会会長の福田一哉様から当会の50周年へのお祝いと今後の発展を祈念するご祝辞をいただいた。

その後、当会のさらなる発展と継続、そして地域と地元企業へよりよい貢献をしていくためのフューチャービジョン (FV) がスクリーンに大きく映し出された。

FVは50周年実行委員会のFV部が1年の調査・研究・会員からの意見聴取等を行い作り上げたものである。

そして、今後の当会活動をさらに盛り上げていくために①「一緒に成長しやいや!」、②「愛される会にしやいや!」、③「新しいこと、やったらいや!」の3つのバリューを目標に「おもしろそうだけん、やったらいや」の姿勢で、失敗を恐れずすべてを成功への一歩として捉え、探求心を持って取り組むことをご来賓、OB会員の前で当会を代表して発表し、会場からは万雷の拍手が鳴り響いた。

引き続き多くのご来賓・OB会員にご出席いただき、祝賀会が開催された。



衆議院議員 赤沢 亮正 様



衆議院議員 湯原 俊二 様



鳥取県中小企業団体中央会会長 岩崎 陽一 様

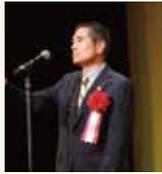


鳥取県西部中小企業青年中央会OB会会長 福田 一哉 様





参議院議員  
舞立昇治様



境港市長  
伊達憲太郎様



米子市長 伊木隆司様



和楽衣箱様



福田OB会長による釜めしの火入れ

祝賀会では冒頭永井会長から50期のスローガン「清新澁刺」とテーマ「明るく、元気に、前向きに」について触れられ、「清新澁刺は当会結成当初から使われてきた言葉で中央会会員の魂です。この変革の時代に我々の最大の強みである若さをもって前進していきたい。この日本一と言われた鳥取県西部中小企業青年中央会を清新澁刺とした精神で明るく、元気に、前向きに次の世代に託すことを約束します」と力強く挨拶された。

続いて、ご来賓を代表して参議院議員の舞立昇治様よりご挨拶をいただいた。

そして、境港市長の伊達憲太郎様に乾杯のご発声をいただきメインイベントである懇親会が幕を開けた。

懇親会では現役会員がご来賓・OB会員に挨拶に伺い、交流し、笑い声の絶えない大変楽しい会となった。

懇親会を彩るアトラクションの1つ目は、先輩方から語り継がれてきた「同じ釜の飯を食う」という言葉になぞらえ、文字通り1つの大釜で米を炊き、会場参加者全員で「同じ釜の飯」を食す「50周年特別釜めし」。火入れを福田一哉OB会長に行っていただき出席者全員で釜めしを食べ、心をつにじた。

2つ目は芸能集団「和楽衣箱」様による演芸。素晴らしい演奏・演舞をご披露いただき、会場を音と表現で大いに盛り上げていただいた。

3つ目はトライアスロン壮行会。応援団が現役会員チームメンバーである山根会員、石田会員、谷村会員、及び、OB会員チーム（はやいがごっつお）のメンバーである後藤公平OB、福庭貴志OBの活躍を祈念した。

さらに、飛び入りでレジェンド応援団員の中島太郎OB、前田真OBが応援に駆け付け、そのパフォーマンスに会場は大いに盛り上がった。

最後は、米子市長の伊木隆司様に万歳三唱で中締めをしていただいた。

ご来賓・OB会員をお見送りした後、4名の新OB会員に現役会員から感謝と恩返しを込めて胴上げを行い、祝賀会は大盛況の中で閉会となった。

(記事：小原)



レジェンド応援団 中島 太郎 OB



レジェンド応援団 前田 真 OB

## 県会長ご挨拶



鳥取県中小企業青年中央会  
第50期会長 **足立 駿**

【所属企業・役職】 足立ふとん店米子店 店長  
【入会年度】 H24年1月(H23年度)  
【中央会経歴】 H25年度 副委員長  
H27年度 委員長  
H28年度 県出向理事  
H30年度 委員長  
R02年度 副会長  
R03年度 副会長  
R04年度 監事  
R05年度 県出向監事

鳥取県中小企業青年中央会の第50期会長を務めます足立駿と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当会は、今期で創立50周年を迎えることとなりました。これまで50年間、明確な目標と方向性を持ち、時代の変化に対応するために強いリーダーシップを発揮してきたことが、この歩みを可能にしたのではないのでしょうか。この50年の歩みは、先人たちの努力と犠牲によって築かれたものであり、困難な状況に直面しながらも信念を持って歩み続けてきた結果だと思えます。現在、大きな変革が進む時代において、私たち経済団体にも変化が求められています。先人たちが築いた基盤の上に立ち、歴史を尊重しながらも、時代に即した新たな一歩を踏み出す必要があるのではないのでしょうか。

50周年を迎えるにあたり、諸先輩方の栄光ある功績に深く感謝し、敬意を捧げると同時に、その意志を受け継ぎ、さらなる成長と発展を目指したいという思いから、今期のスローガンを「承前啓後」(しょうぜんけいご)としました。承前は、文化や歴史、前例を受け継ぐことを意味し、啓後は、後世に導き、未来につなげることを意味します。この考え方は、古代中国で大切にされてきたものであり、風習や文化、事業などを次の世代に伝えて、未来をより充実させることを目指すものです。諸先輩方の思想や文化を受け継ぎ、それを発展させ、また次世代に受け渡すことで、会全体として成長し、未来を切り開いていきたいと決意を込めました。

最後になりますが、50年という節目に、当会の活動指針である「英知・友愛・団結」の綱領を再認識し、東部、中部、西部各地区の垣根を超え全力で活動していく所存です。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和6年度鳥取県中小企業青年中央会 通常総会・祝賀会



令和6年7月29日、倉吉シティホテルにおいて鳥取県中小企業青年中央会令和6年度通常総会が開催された。冒頭、第49期菅埜高典会長が、49期の活動を振り返るとともに49期県役員に対する感謝を述べられた。次に令和5年度事業報告並びに決算、新役員指名承認の件、令和6年度事業計画並びに予算について審議に付され、満場一致で承認された。最後に第50期足立駿会長が「縁あって集った会員。手を取り合って各地区の垣根を越えて活動していきたい」と挨拶され、通常総会は閉会となった。

続いて祝賀会が盛大に開催された。県会長の引渡式が行われた後、足立会長が「県中央会も創立50年を迎える。諸先輩方の意思を受け継ぎ更なる成長と発展を目指す。会員一人ひとりが極限を突破して目標に向かって挑戦して欲しい。綱領を再認識し、全力で活動していきたい」と力強く第50期の抱負と決意を述べられた。

団体中央会会長岩崎陽一様より祝辞をいただき懇親会に移ると、因伯音(インパクト)による和楽器演奏や各地区委員長紹介などで会場は大いに盛り上がり各地区の会員が懇親を深めた。

第50期は西部所属の足立駿会員が県会長を務められる。例年にも増して私たち西部の会員が積極的に県行事に参加して盛り上げていきたい。

(記事:野口)





# 第42回 全日本トライアスロン皆生大会

去る7月14日、第42回全日本トライアスロン皆生大会が開催された。中央会からは「チームTSC」（山根会員、石田会員、谷村会員）が参戦した。大雨の影響で棄権が相次ぐ中、チーム一丸となって見事完走！また、年々会員もボランティアも減少する中、一人ひとりが何役もこなし、今年もボランティア部、マラソン部、AS部を運営し、中央会の強い団結力を見せた。



## 完走お疲れさまでした！

## トライアスロン参加選手感想

### 総務委員会 山根 壮

株式会社ヤマネ産機 常務取締役



大会の前日、いつもより早く寝るために布団に入りましたが、海での初泳ぎへの不安か緊張のせいか、結局夜通し眠れずに朝を迎えました。バナナと栄養ドリンクを手に、「なんとかかな」と自分を奮い立たせて本番に臨みました。スタートは一斉で、すぐに団子状態に。他の選手の手足がぶつかり、押し潰されながらも、何とか気力を振り絞って3kmを泳ぎ切り、次の石田さんにバトンを渡すことができてホッとしました。

心配されていた谷村さんが素晴らしいタイムで走り抜けたのは本当に感動的でした。何よりも、皆様の温かい応援があってこそ無事にゴールできたことに感謝しています。ありがとうございます。いつかはフルマラソンに挑戦したいですね。

### 総務委員会 石田 倫章

ウィルビー株式会社 課長



まずは、今年もボランティア支援していただいた皆様に感謝申し上げます。昨年と打って変わって雨天の開催となり、晴天の酷暑とはまた異なる対応やご苦労があったかと思います。皆様のご支援で今年も中央会チームは時間内に完走する事ができました。ありがとうございました！

さて、先に記しました通り、今回は大会中通して雨に見舞われました。恐らく当日の写真に写っていると思いますが、真夏にそぐわないレインウェアを着用しました。こんな重装備で走ったのは恐らく参加者約1000人中で自分1人だけだったと思います。ですが、ダウンヒルはかなり寒かったそうなので、正解を引いたと自負しています。

今回は悪天候や練習不足もあり、完走を第一に考えて走りましたが、次の機会があれば、一度は真剣にタイムを狙ってみたいとも考えています。その時はまた、中央会チームの結成をよろしく願います！

### ビジネス経営委員会 谷村 祐也

美保テクノス株式会社 営業部係長



「オレ出るわ」とノリと勢いで言い、練習をしない言い訳を考えながら一カ月前…。さすがにヤバいと感じ、6月で追い込みをかけ、あっという間に本番当日。山根会員・石田会員からバトンを受け、21時までには完走することを目標に走り出しました。20kmまでは順調でしたが、24km地点で足がつかなくなり、30kmを超えたあたりから急失速。しかし、各ASや沿道での声援が、愛と力と勇気を与えてくれました。声援ってすごいですね！

目標の21時までにはゴールすることができたのは、チームだけでなく、ボランティアで参加された会員の方々全員の方だと感じています。本当に楽しい40km、そして1日でした。ありがとうございました。

# 第42回 全日本トライアスロン皆生大会を終えて

実行委員長 宇佐見 啓輔

エレックス株式会社 執行役員 システム部 部長



今年は、西部青年中央会の50周年事業もあり、多大な負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。当会は、ボランティア部、マラソン部の部長と部員の派遣、エイドステーションの運営に、準備段階から多くの時間を費やしています。OBの方々から引き継いだ使命感や地域貢献へ注力していますが、大山お地蔵さまフェスティバルや米子ドリームランタンナイトなど当会主催の事業も行っており、会員の負担軽減が必要となっています。今回は、運用方法をIT化し「運用システム改革元年」となりました。次回以降、各部が協力し合うことで、運営業務の効率化と負担軽減を期待しています。また、持続可能な活動のために当会の貢献度を認知してもらうことが必要です。しかし、パンフレットには当会の名前は記載されておらず、多くの方がトライアスロンに中央会が関わっていることを知りません。皆生トライアスロン協会の方には、当会の立ち位置の再考を、この場を借りてお願いし、実行委員長の役目を終えたいと思います。最後に、一緒に汗を流して頂いた現役会員そして、OB会員の皆様、本当にありがとうございました！

## 各部長感想

**ボランティア部長 松田 順次**  
合同印刷株式会社 取締役社長室長



ボランティア部長をさせていただきました松田です。7月14日の大会当日は、朝から雨が降る中ではありましたが、大きなトラブルもなく終えることができました。近年、ボランティア参加企業が減少しており、エイドステーションや給水所でボランティア不足になった場所をボランティア部で対応するなど、当日はかなりバタバタとした状況になってしまいましたが、ボランティア部だけでなくマラソン部、AS部で協力し合い、またOB会員の方々にも協力いただいたお陰で、なんとか乗り切ることができました。ありがとうございました。今年は、直前に中央会の50周年事業もあり、中央会の会員数も減少している状況下で、ボランティア部の部員にはかなりの負担をかけ、ボランティア部としても反省点や改善点が多々あったと思います。来年に向けてしっかり改善していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

**マラソン部長 中西 悠介**  
株式会社LABO 工事部次長



第42回全日本トライアスロン皆生大会お疲れ様でした。昨年度の晴天の中での開催と違い、今大会は悪天候の中での開催となり、参加選手の皆様やボランティアの皆様の事故等が懸念されましたが、無事に大会を終えた事に、ほっとしています。大会当日はイレギュラーな事がありましたが、マラソン部、AS部、ボランティア部の皆様のご協力により対応出来た事には大変感謝しております。皆様本当にありがとうございました！

**AS部長 仲佐 大志**  
株式会社あしがる 代表取締役



今期AS部部長を務めさせていただきました仲佐です。例年弓ヶ浜エイドステーションを担当しておりましたが、今期は夢みなとターミナルエイドステーションを担当する事となりました。場所が変わると色々勝手が違う事と今期から新たにアイスバスを設置するなど、あたふたする場面もありましたが力を合わせ何とか乗り切ることが出来ました。AS運営、ポイント立ち、選手誘導など反省する部分も多々あるかと思えます。参加された皆様からご意見を頂戴し次に繋げていきたいと思えます。最後になりますが、当日ASを担当いただいた皆様、マラソン部・ボランティア部の皆様、ご協力いただいた全ての皆様ありがとうございました。おかげ様で大きな事故も無く運営する事が出来ました。改めて大変な時ほど中央会の力を発揮できるのだと感じました。来期同じ場所になるかは分かりませんが、AS部・マラソン部・ボランティア部の垣根を越えて中央会が一致団結して取り組みればと思います。

## 新入会員が見たトライアスロン

**中央会発信委員会 森下 剛**

大樹生命保険株式会社 営業部長



今回初めてボランティアとして参加させていただきました。境夢みなとターミナルのエイドステーションでは、選手に必要な飲料や食材の準備等を行いました。当日は雨の中、高校生も一生懸命取り組んでおり心が温まりました。

選手のルートを誘導する交差点でのポイント立ちの際には、選手の方からも「何時までここで誘導されているのですか？」などと話しかけて頂く中「ボランティアの皆さんのおかげで成り立っている」と言って頂き、選手のスポーツマンシップとボランティアの想いの両方の心で成り立っている素晴らしい大会だと感じました。

**ビジネス経営委員会 武良 春香**

明治安田生命保険相互会社 支店マネージャー



私はずっと米子に住んでいながら皆生トライアスロンを観に行ったことも、携わったこともありませんでした。

この度、学生ボランティアの説明会、当日の受付対応、折り返し地点のエイドステーションに関わらせてもらい、本当に大勢のボランティアの協力のもとで成り立っていることが分かりました。朝から夜遅くまで大変でしたがスタートからゴールまで見る事ができて貴重な体験でした。

そんな中、選手として参加した現役会員の姿に本当に感動して涙が出てしまいました。感動をありがとうございました！お疲れ様でした！

## ハンサム発刊についてのお知らせ

第50期のハンサムは以下のスケジュールで発刊させていただきます。

10月発刊「秋号(8月、9月)」、12月発刊「冬号(10月、11月)」、1月発刊「新年特別号(12月)」3月発刊「春号(1月、2月)」、5月発刊「初夏号(3月、4月)」、7月発刊「夏号(5月、6月)」

皆さまにより楽しんでいただけるよう内容充実に努めて参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 編集後記

第50期 中央会発信委員会 委員長 新井 翔太

第50期永井会長年度が始まりました。テーマである「清新澆刺」を1年間を通して体現出来るように邁進してまいります。また、サブテーマでもある「明るく元気に前向きに」を胸に委員会メンバーと活動しチャレンジしてまいります。